

# 故 田 中 宏 暁 先生 の ご 逝 去 を 悼 む



故 田 中 宏 暁 先生

福岡大学スポーツ科学部

教授 檜垣靖樹

## 田中宏暁先生ご略歴

1947 昭和22年 7月28日	東京都大田区で出生
1970 昭和45年 3月	東京教育大学体育学部健康教育学科卒業
1970 昭和45年 4月	福岡大学体育学部副手
1971 昭和46年 9月	福岡大学体育学部助手
1975 昭和50年 4月	福岡大学体育学部講師
1983 昭和58年 4月	福岡大学体育学部助教授
1983 昭和58年 9月	モンリオール大学付属小児病院内内分泌学研究室客員教授 (昭和59年 9月まで)
1988 昭和63年 4月	福岡大学体育学部教授
1998 平成10年 4月	福岡大学スポーツ科学部教授
2003 平成15年12月	福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科長(平成23年11月まで)
2009 平成21年 4月	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 身体活動研究所長(平成25年 3月まで)(平成23年 4月より平成30年 3月まで福岡大学基盤研究機関 身体活動研究所長)
2018 平成30年 3月	米国 Wake Forest 大学名誉教授
2018 平成30年 3月	福岡大学定年退任
2018 平成30年 4月	福岡大学名誉教授

田中宏暁先生は、平成30年4月23日(月)18時18分にご逝去されました。享年70歳でした。3月24日、福岡大学の最終講義では、「スロージョギング健康法」と題して300名を超える受講者を魅了しました。福岡大学での48年間、一貫して健康づくりに係る研究に従事され、退職後もスロージョギングを基盤に“Aerobics with smile”を世界に発信していきたい、と話されていた矢先のことでした。ここに先生のご功績を記し、ご冥福をお祈りする次第です。

先生は、福岡大学体育学部設立の翌年(1970年、昭

和45年)に進藤宗洋先生の下で研究をスタートされました。文部省科学研究費特定研究Ⅰ「生物圏の動態」の「ヒトの適応性」のうち「日本人の作業能および生長諸段階における適応能の研究」(研究代表者:猪飼道夫,分担研究者:進藤宗洋)の助成を受け、佐賀県神埼郡三瀬村立三瀬中学校の生徒195名を対象に、体力・作業能力の調査をされました。とりわけ最大酸素摂取量の測定は、当時の綿密かつ創意工夫された実験状況が福岡大学体育学研究(1975年)に記されています。『筑紫山脈系三瀬村住民の体力・作業能力の研究

－第1報 三瀬村立三瀬中学校生徒について－』の研究論文中に、「…呼吸採集用マスク（呼吸管口径28 mm, マスク装着はマジックバンドにより15秒以内に装着終了できる）を装着させ、…呼吸を1分間ずつダグラスバック（空気もれの有無は十分に検定して使用した）に採集した。呼吸量の測定は20 L双胴ドラム型レスピロメーター（Respirometer CR-2- Continuous recording, FUKUDA IRIKA KENKYUJO）を用い、…呼吸標本は30～50 mlの注射器に採集し、ゴム栓をした後、稀乳酸溶液中に浸して保存した。注射器は気密性を検査した上で飽和塩化リチウム溶液でコーティングした。そしてショランダー微量ガス分析器（建部青州堂、シリコナイザーにて毛細管部をコーティングした）によって二酸化炭素と酸素を分析し…」と記載されています。田中先生は、学部教育の運動生理学実験実習では、「昔は一人の被検者の呼吸ガスを分析するのに翌日の朝までかかった」と説明されていました。まさに、福岡大学運動生理学研究室の原点がそこにあり、進藤宗洋先生、福岡大学体育学部1期生の水原博而氏や東京教育大学学生の小原繁氏と寝食を共にしながら研究に従事したことを話されていました。

このような中で生まれたのがニコニコペース®の運動です。モナーク社製の自転車エルゴメータを用いて最大酸素摂取量の50%強度の運動（ニコニコペース®の強度）を1回1時間、週3～5回のトレーニングを3ヶ月間実施後、体重あたりの最大酸素摂取量が増加したことを認めました。そのエビデンスは、体育科学（1974年～1977年、進藤宗洋、田中宏暁、小原史朗、徳山郁夫、小原繁、松本謹吾）に発表され、1976年に出版されたHollmannの著書「Sportmedizin: Arbeits- und Trainingsgrundlagen」にも引用されています。1970年代の終わりには、福岡大学医学部の荒川規矩男先生との協働研究が始まり、高血圧患者を対象とした乳酸閾値強度（最大酸素摂取量の約50%強度に相当）の運動トレーニングによる降圧効果を立証し、1991年には世界保健機構（WHO）の高血圧の運動療法のガイドラインに採用されました。その後、ニコニコペース®の運動は、生活習慣病の運動療法のガイドラインに広く採用されるようになりました。

田中先生は、昭和58年（1983年）、モントリオール大学に留学され、ストレス学説を唱えたHans Selye先生の門下生であるCollu研究室にて、運動とストレスの研究に従事されました。ちょうどその頃、心房性Na利尿ホルモンが発見され、その分泌は心房の伸展刺激によるものであることがわかっていました。運動時の1回拍出量が最大となる50%最大酸素摂取量強度あるいは乳酸閾値強度で心房の伸展が最大になるのではないかと、すなわち、心房性Na利尿ホルモンはその強度で最大になるという仮説が成り立つのではないかと、そして乳酸閾値強度を超えると抗利尿ホルモンが分泌されることから、それらの関係性を研究することに非常に興味を持たれたようです。1年間という留学期間を終えて日本に帰国されましたが、その研究への熱意は増す一方で、再びモントリオールへ向かわれました。

そして、Gutkowska先生より心房性Na利尿ホルモンを測定する抗体をいただき、帰国後にすぐの実験を行い、仮説通り、50%最大酸素摂取量強度で心房性Na利尿ホルモンが顕著に上昇することを見出されました（Life Sci. 1986）。

私が田中先生と初めてお会いしたのは、昭和61年（1986年）3月、運動処方を学ぶために運動生理学研究室を訪ねた時でした。研究室の皆さんに、「群馬大学七人の侍来る！」と温かく迎えていただきました。研修には、博多保健所、全日空ホテルサンテロア、ホテル日航福岡フィットネスクラブ、入江内科医院など、運動処方の実践を深く学ぶことができました。七人の侍は、山西哲郎先生（田中先生が東京教育大学長距離ブロックに入部したときのコーチ）、山口明彦先輩、柳田昌彦先輩、七五三木聡君、大沼義彦君、鈴木隆君、檜垣でした。当時38歳だった田中先生は、とてもフレンドリーな先生、福岡大学運動生理学研究室は、ファミリーのような、和やかでほっとする学び舎、という印象でした。

田中先生は、運動療法の最も重要な要素である運動強度の設定について、簡易でかつ精度よく決定することはできないか、研究を続けられました。特に、運動時の心拍数と最高血圧の積であるDouble Productは、乳酸閾値強度を境にして屈曲することを見出され、シアトルで開催された第39回アメリカスポーツ医学会で発表されました。そのポスター発表会場に心臓リハビリテーションで著名なMiller先生とBrubaker先生（Wake Forest University）が来られ、その後の協働研究に繋がりました。Double Product研究は、MMSE, Eur. J. Appl. Physiol, Am. J. Cardiolなど世界に向けて多数の学術論文として発信されました。（平成30年3月24日の田中先生の最終講義に、Brubaker先生が来日され、田中先生はWake Forest大学より名誉教授の称号を授与されました。）

運動強度の設定に係る研究はさらに進化し、心音研究へと進みます。心拍数と第一心音の振幅の積より新しいDouble Productを報告され、簡易で高精度のデバイスの開発に着手され、つい最近、完成品が出来上がりまさに世界に発信されようとしている時でした。非常に残念でなりません。この心音評価システムは、非侵襲的かつ精度よく至適な運動強度を見出すことができ、スロージョギング®の指導に有用なデバイスになったに違いありません。

最後に、スロージョギング®は全世界に広まり、平成30年5月27日に開催された、田中宏暁先生を偲ぶメモリアル世界スロージョギング®大会には、世界で24か国、国内では18地区に多くの愛好者が集まりました。田中先生のスロージョギング健康法は、全世界のスロージョギング®愛好者の皆さんに受け継がれ、実践されていくことと思います。どんなに忙しいときでも、快く依頼をお引き受けされ、ホスピタリティにあふれるドクターヒーロー、ゆっくりとお休みください。今まで、本当にありがとうございました。心からご冥福をお祈りいたします。

## 一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2018年2月）議事録

日 時：2018年2月16日（金）午後5時30分～7時30分

場 所：AP品川 P+Q

出席者：鈴木政登理事長，西平賀昭副理事長，  
碓井外幸常務理事，  
宇高 潤，大野 誠，小野寺昇，勝村俊仁，  
後藤勝正，坂本静男，須田和裕，須永美歌子，  
武政 徹，田畑 泉，成田和穂，浜岡隆文，  
前田清司，宮地元彦，和気秀文各理事，  
清田 寛，小林康孝，定本朋子各監事，  
山次俊介第73回大会実行委員長

欠席者：永富良一副理事長，  
川原 貴，栗原 敏，下光輝一，竹森 重，  
田中喜代次各理事，井上 茂監事

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

前回の理事会議事録を理事会開催中に内容確認を行い、訂正等がある場合には申し出て頂くこととし、理事会終了後に承認することにした。

#### 2. 日本体力医学会健康科学アドバイザー新規申請者（追加）について（碓井称号委員長）

日本体力医学会健康科学アドバイザー®の新規申請者1名の氏名リストが提示され、承認された。

#### 3. 選挙制度の見直しについて（鈴木理事長）

資料に基づき、選挙制度の見直しについて報告された。

現在、理事選挙、理事長選挙、評議員会長・監事選挙、副理事長選挙、常務理事選挙まで順次行われており、約4ヶ月間（2015年の場合）を要している。理事任期2年のうち、新理事体制による学会運営期間は1年8ヶ月程度と任期期間が短く、1回の総選挙には130～150万円を費やしている。執行体制の強化および費用削減を検討し、司法書士からの助言も踏まえて選挙の簡略化について以下のように提案がなされた。

1) 理事任期2年、監事任期4年又は2年は、法律で規制されているので、定款の改定は行わない。

2) 理事・評議員会長・監事の選挙を同時に行い、理事24名、評議員会長1名・監事4名の名前を記入・投票する。理事・評議員会長に選出された場合、兼職は可能である。

次いで、理事・監事両職に選出された場合、両者は兼職できないため、当事者の意向を尊重し、順次次点者を繰り上げ当選させる。

3) 理事長・副理事長・常務理事選挙を同じ日に行う。理事に選出された24名を招集し新理事の会を開催し、理事長1名、副理事長2名、常務理事1名を順次選出していく。

4) 理事就任後2年後の選挙は、理事に再任された24名の理事の互選によって、理事長1名、副理事長2名、常務理事1名を順次選出していく。

審議の結果、承認され、9月の社員総会で報告する事となった。

#### 4. シニア会員、学生会員の新設について（鈴木理事長）

資料に基づき、シニア会員、学生会員の新設について報告された。

定年退職による会員数減少抑制および新会員獲得のために、会員種別の新設を検討し、司法書士に確認した所、定款改定には総社員数の2/3以上の出席が必要であるが、定款施行細則を改定するならば、社員総会の出席社員の決議にて会員種別を新設することができる、との回答があった。

そこで、定款施行細則第2章第2条の改正について、以下のように提案がなされた。

### 第2章 会費

第2条 この法人の会費は、次のとおりとする。

(1) 正会員は、一般会員、シニア会員、学生会員から構成され、会費は次のとおりとする。

一般会員 年額 10,000円

シニア会員 年額 (未定)円

学生会員 年額 (未定)円

#下線：新たに追加した文言

審議の結果、シニア会員、学生会員の新設について検討を進めていくが、シニア会員、学生会員の年会費、シニア会員の評議員資格の継続については、総務委員会で原案をまとめることとし、次回理事会で再度審議する事となった。

#### 5. 体力科学・JPFISM合本製本および保管について（後藤編集副委員長）

資料に基づき、体力科学・JPFISM合本製本および保管状況について、学会誌「体力科学」、「JPFISM」は、創刊号から「体力科学65巻」及び「JPFISM Vol. 5」まで、全て上製本にして編集事務局が保管を行っている。2017年発行の「体力科学66巻」及び「JPFISM Vol. 6」も年6回の発行が終わったため、合本を行う場合の上製本代と保管料が提示され、今後も上製本の継続を続けていきたいと提案がなされた。審議の結果、承認された。

#### 6. 地方会のあり方について

(碓井全国地方会実行委員会業務執行役)

資料に基づき、地方会の抄録掲載料、参加費の取り決めについて報告があり、現在各地方会により、非会員の地方会参加者の抄録掲載料の徴収が異なっていたので、抄録掲載料の徴収について以下の統一案が提案された。

1) 地方会参加費は、各地方会にて金額を決定する。

なお、参加費を徴収する場合は抄録掲載料も加算されることを考慮して金額を決めることとする。

2) 地方会事務局が招聘した講演者の抄録掲載料は、会員種別を問わず徴収を行わない。

3) 会員の抄録掲載料は、無料とする。

4) 非会員の抄録掲載料は、3,000円とする。

5) 非会員の内、大学院生及び学部生の抄録掲載料は、



3,000円とする。

- 6) 上記抄録掲載料はFirst Authorのみ徴収し、Second Author以下は会員種別を問わず掲載料の徴収を行わない。

審議の結果、承認された。なお、細部については総務委員会と編集委員会でもとめることとし、次回理事会で新たためて報告する事となった。

## 7. その他

- 1) ゲノム編集技術を用いた医学研究に関する問い合わせについて（鈴木理事長）

日本医学会連合より、ゲノム編集技術を用いた医学研究に関する質問票が届いたと報告があった。個々の質問内容について本理事会で確認がされ、その結果を日本体力医学会からの回答として提出する事とした。

- 2) 宮地元彦理事からの報告

宮地理事の所属施設で、身体組成（脂肪、骨、筋肉等）の測定を実施する際、資格をもたない研究者（医師、歯科医師又は診療放射線技師ではない者）が、X線骨密度測定装置を操作していた可能性があり、法令違反の疑いがあるとの報告がなされた。宮地理事が責任者として所属する部門で発生した事案のため、利益相反委員会委員長の進退伺いを理事長に提出したことが報告された。本件については、詳細が解るまでは進退伺いを保留にすることとした。

## 【報告事項】

### 1. 各種委員会報告

- 1) 総務委員会（武政委員長）  
第75回（鹿児島）大会の大会長を検討中である事が報告された。
- 2) 編集委員会（後藤副委員長）  
資料に基づき、以下の内容が報告された。
- ①「体力科学」誌、「JPFSM」誌の投稿・掲載状況について。
- ②掲載論文の著者や共著者に企業など民間事業者（法人）の所属者がいる場合のCOIの記載について、「体力科学」誌、「JPFSM」誌への投稿にはCOIへの記載を求めた点について提案があり、承認された。
- ③「ACSM運動処方」の指針（原書第10版）ACSM

S Guidelines for Exercise Testing and Prescription」について、次回の学会大会に向けて刊行を目指す予定である。

- ④学術刊行物小委員会より学術刊行物について現状の報告として刊行物の題名と、執筆頂く方の原稿料について、理事会へ照会がなされた。  
題名と原稿料については、まず編集委員会で素案を作成後に再度理事会で審議を行うこととした。
- ⑤編集事務局より、地方会での抄録掲載料について、地方会当番幹事から編集事務局に対して問い合わせが多く来たので、今後は抄録掲載料に関する問い合わせを控えて頂きたいとの要望が出たことが報告された。

- 3) 学術委員会（碓井委員長）

スポーツ医学研修会実行委員会について、基礎コース、応用コースの日程、講師が決定し、テキスト改訂作業に進んでいることが報告された。

- 4) FAOPS2019運営委員会（和気委員長）

資料に基づき、FAOPS2019の進捗状況について報告された。

### 2. 第73回（福井）大会の進捗状況

（山次第73回大会実行委員長）

配布資料に基づき、大会の準備状況について報告された。

会場：AOSSA、ハピリン

会期：2018年9月7日（金）～9日（日）

テーマ：しあわせ元気な福井でつむぐ体力医学  
～QOL維持・向上の運動効果～

### 3. 第74回（茨城）大会の進捗状況

（前田第74回大会長代理）

大会の準備状況等について報告された。

会場：つくば国際会議場

会期：2019年9月19日（木）～21日（土）

### 4. その他

碓井常務理事より、今期は各種委員会委員長の中で理事でない評議員にも委員長がいると説明があり、理事会で意見を聞きたい時には事務局に請求するよう依頼がなされ、最終的に理事長の承認があればオブザーバーとして参加することができると報告された。

## 「第35回筋肉の会」, 「第3回身体運動制御の会」 ジョイントミーティングのご案内

日時：平成30年9月7日(金)

第73回日本体力医学会大会1日目

18:00～19:30

会場：アオッサ・研修室607

演題：

- 岡田洋平先生  
(愛知医科大学医学部内科学講座・神経内科)  
「末梢神経障害に対するヒトiPS細胞を用いた運動機能再建」
- 坂本将基先生(熊本大学大学院教育学研究科)  
「ラバーハンド錯覚と運動スキル」

参加費：1,000円(会場費, AV機材借用費等)

合同懇親会：詳細は当日ご案内致します。

世話人：

「筋肉の会」

山内秀樹(東京慈恵会医科大学分子生理学講座体力医学研究室)

〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1

TEL: 03-3430-8686 自動オペレータシステム(2445)

FAX: 03-3480-4591

e-mail: yamauchi@jikei.ac.jp

「身体運動制御の会」(旧筋電図の会)

中島 剛(杏林大学医学部統合生理学教室)

〒181-8611 東京都三鷹市新川6丁目20-2

TEL: 0422-47-5511 FAX: 0422-44-1816

e-mail: tsunakaj@ks.kyorin-u.ac.jp

### 公益財団法人 明治安田厚生事業団 第35回 若手研究者のための健康科学研究助成

#### 研究テーマ

- 指定課題：運動とメンタルヘルス
  - 一般課題：健康増進に寄与する学術研究
- ※いずれか1件のみ応募可

#### 助成の金額

総額1,500万円

- 指定課題(10件程度)：1件につき100万円
- 一般課題(10件程度)：1件につき50万円

#### 選考委員奨励枠

受贈課題以外から、選考委員推薦による特別枠  
総額90万円(1件につき30万円 3件程度)

#### 応募資格

- 健康科学研究に従事し、修士以上の学位を有する方(医学・歯学の学士などを含む)
- 40歳未満かつ所属長または指導教官の推薦を受けた方
- 第34回(前年度)受贈者は除外

#### 応募締切

2018年8月23日(木) 必着

主催：公益財団法人 明治安田厚生事業団

後援：日本体力医学会

明治安田生命保険相互会社

#### 選考委員

委員長 福永哲夫(鹿屋体育大学名誉教授)

委員 井澤鉄也(同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科教授)

委員 小熊祐子(慶應義塾大学スポーツ医学研究センター准教授)

委員 定本朋子(日本女子体育大学教授)

委員 新開省二(東京都健康長寿医療センター研究所副所長)

委員 永松俊哉(公益財団法人明治安田厚生事業団理事)

(敬称略・五十音順)

#### ●応募方法

申請書を研究助成ホームページからダウンロードして作成してください

作成した「申請者情報ファイル(エクセル形式)」と「研究計画ファイル(ワード形式)」を事務局宛にメールでお送りください

※パスワードが設定されたファイルや圧縮されたファイルは受理できません

#### ●申請書ダウンロード

URL: <http://www.my-zaidan.or.jp/josei/entry/>

#### ●申請書送付

E-mail: [josei@my-zaidan.or.jp](mailto:josei@my-zaidan.or.jp)

#### ●お問合せ

公益財団法人 明治安田厚生事業団体力医学研究所  
研究助成事務局

〒192-0001 東京都八王子市戸吹町150

TEL 042-691-1163 FAX 042-691-5559

## 公益財団法人 上原記念生命科学財団 平成30年度研究助成および海外留学助成等の交付対象者募集

### 1. 研究助成

(1) 助成対象課題 生命科学, 特に健康の増進, 疾病の予防および治療に関する次の諸分野の研究

- ①東洋医学, 体力医学, 社会医学, 栄養学, 薬学一般
- ②基礎医学 (上記以外)
- ③臨床医学 (      )
- ④生命科学と他分野との融合領域 (生体情報学, 生体医工学, 生体材料学など)

(2) 助成対象者 上記研究に意欲的に従事する日本在住の研究者で「(3) 推薦者」の推薦を受けた者

(3) 推薦者-推薦は, 原則として1推薦者につき1件とする.

#### ①大学関係

総合大学: 大学院研究科長 (または学部長)<sup>(注1)</sup>

単科大学: 学長

財団が承認した大学附置研究所等: 代表責任者

大学共通組織<sup>(注2)</sup>(研究センター, 研究施設等): 学長

(注1) 同一の研究科, 学部の場合はいずれか1件の推薦とする

(注2) 原則研究センター長, 施設長および附属病院長は推薦者となることできない

②大学以外の研究機関: 当財団が承認した研究機関の代表責任者

注) 研究推進特別奨励金の推薦者は大学長とし, 1大学1件の推薦とする.

(4) 助成の種類および金額

研究助成金: 500万円, 件数100件

年齢不問, 単独研究でも共同研究でもよい

研究推進特別奨励金: 400万円, 件数10件

①医学部 (大学院医学研究科) または薬学部 (大学院薬学研究科) において2016年4月以降に独立した研究室を立ち上げた日本在住の教授 (特任教授, 准教授, 寄付講座の教授は除く)

②1973年4月1日以降出生の者. 但し, 医学部 (大学院医学研究科) の臨床系の教授の場合は, 1969年4月1日以降出生の者

研究奨励金: 200万円, 件数110件

若手研究者で1981年4月1日以降出生の者, 但し医学部等6年制の学部卒業者は1979年4月1日以降出生の者

(5) 助成金の使途-研究に要する物品の購入その他研究推進に必要な費用とする.

### 2. 海外留学助成

(1) 助成対象者 研究助成と同じ課題の研究を行う研究者で次の条件を満たす者

①研究助成と同様に「1. 研究助成 (3) 推薦者」の推薦を受けた者

②原則として2019年1月1日~12月31日の間に新たに海外留学に出立する者

但し, 事情によっては年内に出立する者および海外留学中の者 (条件あり) も対象とする.

③1年間以上の海外留学を受け入れる大学等学術研究機関が決定している者

(2) 推薦者 「1. 研究助成 (3) 推薦者」と同じ

(3) 助成の種類および金額

リサーチフェローシップ:

450万円以内, 件数 約90件

①研究奨励金と同じ年齢要件を満たす若手研究者

②助成期間中の年収が600万円以下の者

③博士号を有するか, またはそれと同等以上の研究業績を有する者

ポストドクトラルフェローシップ:

450万円以内, 件数 約50件

①1985年4月1日以降出生の者, 但し医学部等6年制の学部卒業者は1983年4月1日以降出生の者

②助成期間中の年収が250万円以下の者

③博士号を有するか, または平成30年4月までに取得見込の者

※尚, 海外留学助成は成績優秀者 (若干名) に対し, 2年間の助成を行う.

### 3. 来日研究生助成金

(1) 助成対象者 わが国の大学院の博士課程 (前期/後期) に入学するために来日する者, あるいは既に大学院に在籍する大学院生で, 生命科学, 特に健康の増進, 疾病の予防および治療に関する研究を行い, 次の条件をいずれも満たす者. (申請時点で大学院入試を受験していない者および合否が未定の者でも応募可とするが不合格となった場合は当財団へ申請取り下げの連絡が必要)

①日本以外の国籍を有する者

②滞在費として他の奨学金, 助成金を受けていない者

③募集開始時点で日本での滞在期間が3年以内の者

④募集開始時点で39歳以下の者

⑤助成開始から1年以上の研究を行う者

(2) 助成金額および件数-月額15万円 (助成期間は2年以内) 助成件数10件

(3) 推薦者-大学長 (1大学1件の推薦とする)

### 4. 国際シンポジウム開催助成金

わが国で開催される国際的な研究集会に対する助成

※詳しくは当財団ホームページ参照

### 5. 応募方法その他

(1) 応募方法-当財団ホームページの助成金Web申請のページより応募する.

(2) 応募期間-2018年6月8日~2018年9月5日

(3) 選考方法-当財団選考委員会において選考し, 理事会で決定する.

(4) 採否の通知-2018年12月に採択者をホームページに掲載の上, 採択通知を郵送する.

(5) 助成金の交付時期-2019年1~3月

### 6. 推薦書提出先および連絡先

〒171-0033 東京都豊島区高田3丁目26番3号

公益財団法人 上原記念生命科学財団

TEL: 03-3985-3500, 8400 FAX: 03-3982-5613

E-mail: mail85@ueharazaidan.or.jp

Homepage: <http://www.ueharazaidan.or.jp>

# 日本医学会だより

JAMS News

2018年5月 No.59  
日本医学会

## ◆日本医学会協議会

日本医学会会長・副会長と日本医師会（日本医学会担当）役員で毎月開催している役員会議である。

## ◆第85回日本医学会定例評議員会

平成30年2月28日に開催した。平成29年度年次報告、平成30年度事業計画の報告の他、第30回日本医学会総会2019中部の開催準備状況、第31回日本医学会総会の会頭、会場、会期の報告（2023年4月21日～23日、東京国際フォーラム、会頭 春日雅人）等の議題があった。平成29年度新規加盟学会は、日本再生医療学会が承認され、129学会となった。

## ◆日本医学会加盟検討委員会

平成29年度第1回日本医学会加盟検討委員会を、平成29年12月6日に開催した。加盟申請の27学会についての審査を慎重に行い、その結果を平成30年1月12日の日本医学会協議会で門田会長に報告した。

## ◆第24回日本医学会公開フォーラム

「認知症の予防とケア」をテーマに、平成30年7月21日（土）13:00～16:05、日本医師会館大講堂において開催予定（組織委員長：秋山治彦・横浜市立脳卒中・神経脊椎センター臨床研究部部长）。市民を対象とした公開フォーラムである。参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページご

参照。

## ◆第153回日本医学会シンポジウム

「身近になったゲノム医療～研究から診療への課題～」をテーマに、6月2日（土）13:00～17:05、日本医師会館大講堂で開催予定（組織委員：福嶋義光、小西郁生）。参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページご参照。

## ◆日本医学会医学用語管理委員会

本年度は10月と12月の2回開催した。主な議題は「診療報酬制度」英語改定依頼、「日本医学会医学用語辞典」への提言に対する回答について、「優性」「劣性」の言い換えについて、日本ディスファーマリノパシー患者会からの要望対応について「medical fee payment」の日本語訳について、等である。

また、平成29年9月に日本遺伝学会が発表した優性遺伝、劣性遺伝などの遺伝学用語の改訂提案に関してはマスコミで大きく取り上げられ、分科会の多数の学会に関連する用語であり、社会的な影響が大きいことから、本委員会の下に関係学会と共に「遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ」を作り、検討を始めた。12月7日に第1回を開催し、現在までに4回を開催している。

平成29年12月22日に平成29年度分科会用語委員会を開催した。主な議題は世界と日本におけるICDの動向について、用語の言い換え



のプロセスについて、医学用語事典 WEB 版の使い方、遺伝学用語改訂に関するワーキンググループについて、「奇形」を含む医学用語の置き換え提案、分科会アンケートのまとめについてである。

### ◆「遺伝子・健康・社会」検討委員会

第 16 回委員会を、平成 29 年 8 月 29 日に開催した。委員会宛に提出された質問書について、日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構からの報告、「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」について、ゲノム医療実現推進に向けた取り組み等についての議論が行われた。

### ◆日本医学会利益相反委員会

第 16 回委員会を、平成 29 年 10 月 17 日に開催した。主な議題は、① COI マネージメントの経緯と平成 29 年度の取り組み、② 乳がん臨床試験における利益相反に関する要望書について、③ 日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告等であった。

第 17 回委員会を、平成 30 年 3 月 29 日に開催した。① COI マネージメントの経緯と平成 30 年度の取り組み、② 「関わりのある企業等の COI 開示にかかる留意点」、③ 米国医学会 (JCO) の COI 管理の動向、④ 臨床研究法施行にかかる利益相反管理の概要、⑤ 日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告等について意見交換を行った。

### ◆日本医学雑誌編集者組織委員会

第 19 回委員会を、平成 29 年 5 月 9 日に開催した。主な議題は、① 「日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン」の更新、② 日本医学会利益相反委員会活動報告、③ 日本医学会連合研究倫理委員会活動報告、④ 改訂「提言」案についてであった。

第 20 回委員会を、平成 29 年 12 月 7 日に開催した。主な議題は、① 「第 4 回研究倫理教育研修会」、② APAME (アジア太平洋医学雑誌編

集者会議) 2017 報告、③ Journal of Human Genetics 掲載論文に関する質問書、④ 「日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン」の更新、⑤ WHO-ICTRP の data set の動向、⑥ WPRIM (WHO 西太平洋地域版 Index Medicus) と WPRIMJ (同・国内委員会) の活動、⑦ 日本医学会利益相反委員会活動報告についてであった。

第 21 回委員会を、平成 30 年 2 月 21 日に開催した。主な議題は、① 「第 4 回研究倫理教育研修会」、② Journal of Human Genetics 掲載論文に関する質問書、③ 「日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン」の更新、④ 日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・シンポジウムの開催、⑤ 日本医学会利益相反委員会活動報告、⑥ WHO 西太平洋地域医学情報データベース国内委員会 (WPRIMJ) の位置づけ、⑦ WHO International Clinical Trials Registry Platform (WHO ICTRP) の data set の日本語版についてであった。

### ◆医学賞・医学研究奨励賞

平成 30 年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞 (旧医学研究助成費) の推薦依頼を日本医師会雑誌の 5 月号に公示。受付期間は、5 月 15 日 (火)~7 月 3 日 (火)。推薦書・要項等は、公示日より日本医師会ホームページ (<http://www.med.or.jp/>) からダウンロードできる。

### ◆日本医学会への加盟申請

平成 30 年度の日本医学会への新規加盟申請は、5 月 15 日 (火) に公示 (日本医師会雑誌等) し、7 月 31 日 (火) に締め切る。申請書は、公示日より本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/>) からダウンロードできる。

### ◆移植関係学会合同委員会

平成 4 年 4 月に発足した本委員会は厚労省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話人を日本医学会長が務めている。



## 編 集 後 記

2018ワールドカップロシア大会が開催されているこの6～7月。下馬評から日本の決勝トーナメント進出は難しいと考えられていましたが、見事にグループリーグを突破し、FIFAランキング3位の強豪国であるベルギーと素晴らしい試合を見せてくれました。私も含め、多くの「にわか」ファンが寝不足状態に陥ったことだと思います。良い意味で期待を裏切ってくれました。「ハルルジャパン」だったら結果はどうだったのか、「西野ジャパン」の何が奏功したのか、一発勝負の現実世界では正解を導くことはできませんが、いろいろと考えさせられるワールドカップでした（なお、この原稿を書いている段階ではまだ優勝国は分かっていません）。

期待を裏切られることは研究の世界でもよくあります。仮説を立て、計画を立て、倫理審査を受け、研究を開始し、データを収集し、統計解析をかけ、仮説を検証するわけですが、その解析結果が仮説を支持しなかったときの「何とも言えない感じ」は、多くの研究者が経験していることではないでしょうか？その段階でどのように考え、どのように行動するかが研究者として大切なことだと思います。これまでのプロセスに不備がなかったかどうかを再チェックするの必要はありますが、仮説通りの結果を求めるあまり、データの改ざんに手を染めないことはもちろん、統計解析の方法をいろいろと試すこともあまりお勧めはできません。確かに、統計解析のかけ方が悪いケースもありますが、ほとんどの場合、うまくいかなかった研究結果をうまくいったように見せること

はできません。むしろ、当初の計画通りに進めて、その仮説が支持されなかったのであれば、仮説のどこに問題があったのかを考え、次のステップに進むことが大切です。さらに大切なことは、その仮説が支持されなかった研究結果を、しっかりと論文として投稿し、形に残すことです。特に人を対象とした研究の場合、「良い結果が出なかったから世に出さない（投稿しない）」という判断は、そのデータを得るために協力してくれた研究参加者のことを考えれば、とても非倫理的です。国際医学雑誌編集者委員会（ICMJE）も「統計学的有意性がないことを理由に論文をリジェクトしてはならない」と言っています（<http://www.icmje.org/>）。しっかり練られた研究計画であることが大前提となりますが、いわゆる「negative trial」であっても、積極的に論文投稿することが、研究者として求められる姿だと思います。

体力科学第67巻第4号には、総説2編、原著2編、資料1編が掲載されています。投稿して下さった先生方に感謝するとともに、会員の先生方からのさらなる論文投稿をお待ちしております。また、査読を担当される先生方におかれましては、統計学的有意性がなくても、しっかり練られた研究結果であれば、リジェクトすることなく、建設的なコメントをいただけますよう、お願いいたします。

中田由夫

### The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.67, No.4

#### 体 力 科 学 第 67 巻 第 4 号

平成30年7月25日 印刷

平成30年8月1日 発行

編集兼発行者  
発行所

田中喜代次  
一般社団法人日本体力医学会  
〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13  
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内  
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012  
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp

編集事務局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1  
鶴岡印刷株式会社内  
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120  
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印刷所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1  
鶴岡印刷株式会社